

応急仮設住宅等栄養・食生活改善支援基礎調査結果

調査の概要

1 目的

被災者は、精神的ストレス、避難生活に伴う疲労の蓄積、失職等による経済事情の悪化など、日常の生活が震災前と大きく変化している。

応急仮設住宅等への入居に伴う生活環境等の変化に対処した自立への意欲を促し、望ましい食生活の確保及び栄養・食生活改善について支援することを目的に、本調査により主に栄養・食生活に関する基礎的情報を収集する。

2 実施主体

大船渡市

3 協力機関

岩手県大船渡保健所、岩手県奥州保健所、奥州市、(社)岩手県栄養士会

4 調査期間

平成 23 年 8 月 29 日から 11 月 16 日

5 調査対象者

大船渡市内の応急仮設住宅及び既設住宅等利用仮設住宅住民で、本調査時に回答を得られた者 (P12 参照)。

6 調査方法

栄養士が調査対象者を訪問し、別添「食生活状況調査票」に基づき、健康状況、食生活状況及び食事内容等について聞き取りを行う。

聞き取りで得られた情報のうち、食事内容については栄養価計算ソフトを用いて個々の栄養素別摂取状況を計算し、それ以外の情報とともに一覧表にして集計を行った。

調査結果

1 調査対象者の構成 (表 1)

調査対象者は、応急仮設住宅住民 550 名 (91.7%)、既設住宅等利用仮設住宅住民 50 名 (8.3%)、総数で 600 名 (100%) となっている。

性別では、男性 154 名 (25.7%)、女性 446 名 (74.3%) であり、どの年齢層も男女別の調査対象者割合はほぼ同程度となっている。

また、年齢別では、29 歳までが 22 名 (3.7%)、30 歳代が 34 名 (5.7%)、40 歳代 45 名 (7.5%)、50 歳代 72 名 (12.0%)、60 歳代 148 名 (24.7%)、70 歳代 161 名 (26.8%)、80 歳以上 94 名 (15.7%)、年齢不明 24 名 (4.0%) であり、60 歳以上で全体の約 7 割を占めている。

表 1 調査対象者の構成

年代	人数 (名)			割合 (%)		全数に占める年代別被調査者の割合
	男	女	計	男	女	
～29 歳	6	16	22	27.3	72.7	3.7
30 歳代	7	27	34	20.6	79.4	5.7
40 歳代	11	34	45	24.4	75.6	7.5
50 歳代	16	56	72	22.2	77.8	12.0
60 歳代	34	114	148	23.0	77.0	24.7
70 歳代	51	110	161	31.7	68.3	26.8
80 歳以上	20	74	94	21.3	78.7	15.7
不明	9	15	24	37.5	62.5	4.0
計	154	446	600	25.7	74.3	100

2 生活の状況

(1) 治療中の病気

治療中の病気については、「なし」と回答した者が、男性 49 名 (男性総数の 31.8%)、女性 106 名 (女性総数の 23.8%)、総数で 155 名 (総数の 25.8%) となっている。

総数から「なし」と回答した者を差し引いた数を、何らかの病気「あり」の者とみなすと、その数は、男性 105 名 (男性総数の 68.2%)、女性 340 名 (女性総数の 76.2%)、総数 445 名 (総数の 74.2%) となる (表 2)。

表 2 治療中の病気の有無別人数及び割合

区分	人数 (名)			割合 (%)		
	男	女	計	男	女	計
なし	49	106	155	31.8	23.8	25.8
あり	105	340	445	68.2	76.2	74.2
計	154	446	600	100	100	100

何らかの病気「あり」の者を母数とし、病名別人数及び割合を総数の多い順に表 3 に示す。

最も多い病気は、「高血圧」171 名 (38.4%) で、何らかの病気「あり」の者の約 3 人に 1 人の割合となっている。

次いで「糖尿病」42 名 (9.4%)、「外科的疾患」41 名 (9.2%)、「心臓病」35 名 (7.9%)、「脂質異常症」33 名 (7.4%) の順となっている。

表3 治療中の病気（複数回答）別人数及び割合

区分	人数（名）			割合（％）		
	男	女	計	男	女	計
あり（母数）	105	340	445	100	100	100
高血圧	32	139	171	30.5	40.9	38.4
糖尿病	9	33	42	8.6	9.7	9.4
外科的疾患	9	32	41	8.6	9.4	9.2
心臓病	10	25	35	9.5	7.4	7.9
脂質異常症	2	31	33	1.9	9.1	7.4
脳血管疾患	7	13	20	6.7	3.8	4.5
こころ	2	17	19	1.9	5.0	4.3
胃腸病	6	10	16	5.7	2.9	3.6
肺	4	11	15	3.8	3.2	3.4
前立腺	13		13	12.4		2.9
腎疾患	3	8	11	2.9	2.4	2.5
がん	2	6	8	1.9	1.8	1.8
神経系疾患	2	6	8	1.9	1.8	1.8
循環器	1	6	7	1.0	1.8	1.6
肝臓病		5	5		1.5	1.1
透析	3	1	4	2.9	0.3	0.9
アレルギー		4	4		1.2	0.9
人工肛門		1	1		0.3	0.2
その他	22	71	93	21.0	20.9	20.9
不明	18	61	79	17.1	17.9	17.8

(2) BMIの状況

身長と体重のどちらにも回答があった者は、男性 88 名（男性総数の 57.1%）、女性 264 名（女性総数の 59.2%）、総数で 352 名（総数の 58.7%）となっている。

これらを母数とし、身長と体重から算出 BMI の値について、18.5 未満を「やせ」、18.5 以上 25 未満を「ふつう」、25 以上を「肥満」と判定し分類した(表4)。

「やせ」と判定されたのは 23 名（6.5%）、「ふつう」が 236 名（67.0%）、「肥満」が 93 名（26.4%）となっている。

表4 身長・体重に回答した者の BMI の状況

区分	やせ BMI18.5 未満	ふつう BMI18.5以上 25未満	肥満 BMI25以上	計	やせ BMI18.5 未満	ふつう BMI18.5以上 25未満	肥満 BMI25以上
男	3	62	23	88	3.4	70.5	26.1
女	20	174	70	264	7.6	65.9	26.5
計	23	236	93	352	6.5	67.0	26.4

(3) 震災前と比較した体重の増減

体重の増減に回答があった者は、男性 93 名（男性総数の 60.4%）、女性 316 名（女性総数の 70.6%）、総数で 409 名（総数の 68.2%）となっている。

これらを母数とし、若干でも体重の減少があった場合を「減少」、変化がない場合を「変化なし」、若干でも体重の増加があった場合を「増加」と判定し分類した(表5)。

「減少」と判定されたのは134名(32.8%)、「変化なし」が179名(43.8%)、「増加」が96名(23.5%)となっている。

「減少」した者の割合は、女性が男性より14.6ポイント多くなっている。

表5 震災前と比較した体重の増減

区分	減少	変化なし	増加	計	減少	変化なし	増加
男	20	52	21	93	21.5	55.9	22.6
女	114	127	75	316	36.1	40.2	23.7
計	134	179	96	409	32.8	43.8	23.5

(4) 1日に3食食べているか? (表6)

1日に3食食べているかについては、「食べている」と回答した者が542名(90.3%)、「食べていない」が56名(9.3%)、「不明」が2名(2.2%)となっている。

「食べている」と回答した者は、女性が男性より8.0ポイント多い。

表6 1日3食食べているか別人数及び割合

区分	食べている	食べていない	不明	計	食べている	食べていない	不明
男	130	22	2	154	84.4	14.3	1.3
女	412	34		446	92.4	7.6	
計	542	56	2	600	90.3	9.3	2.2

次に、「食べていない」と回答した56名の「食べていない」理由を表7に示した。

「いつもの習慣」と回答した者が20名(35.7%)で最も多い。

次いで、「気分で」が4名(7.1%)、「仕事の関係で(忙しい、不規則等)」、「起床が遅い」、「食欲がない」、「減量または太らないため」がそれぞれ3名(5.4%)ずつとなっている。

表7 「食べていない」理由別人数及び割合

理由(複数回答)	人数(名)	「食べていない」全数に占める割合(%)
いつもの習慣	20	35.7
気分で	4	7.1
仕事の関係で(忙しい、不規則等)	3	5.4
起床が遅い	3	5.4
食欲がない	3	5.4
減量または太らないため	3	5.4
動くことが少ない(仕事をしていない)ためお腹がすかない	2	3.6
時間が不規則	2	3.6
時々抜く(理由は不明)	2	3.6
台所に立てない。買い物できない。	1	1.8
作ることが億劫	1	1.8
昼間一人なので食べる気や作る気しない	1	1.8
面倒	1	1.8
記載なし	11	19.6

(5) 食欲はあるか? (表8)

食欲はあるかについては、「ある」と回答した者が560名(93.3%)、「ない」が32名(5.3%)、「不明」が8名(1.3%)となっている。

表8 食欲はあるか別人数及び割合

区分	ある	ない	不明	計	ある	ない	不明
男	141	9	4	154	91.6	5.8	2.6
女	419	23	4	446	93.9	5.2	0.9
計	560	32	8	600	93.3	5.3	1.3

次に、「食欲がない」と回答した32名の「食欲がない」理由を表9に示した。

「食べたくない」、「生活環境が変わってしまったため」と回答した者がそれぞれ2名(6.3%)ずつとなっている。

表9 「食欲がない」理由別人数及び割合

理由(複数回答)	人数(名)	「食べていない」全数に占める割合(%)
食べたくない	2	6.3
生活環境が変わってしまったため	2	6.3
おかずなど気に入らない。食べたいものが食べられない。	1	3.1
食べてもおいしくない	1	3.1
9月から幾分食欲が出てきた	1	3.1
胃の調子が悪い	1	3.1
忙しい	1	3.1
動くことが少ない	1	3.1
地震前よりは食欲が落ちた	1	3.1
気分では食べたくない時がある	1	3.1
年齢的なもの	1	3.1
仕事もしていないため	1	3.1
もともとない	1	3.1
薬をのむために我慢して食べている	1	3.1
病気と精神的な問題。無理して食べている。	1	3.1
記載なし	14	43.8

(6) 食事は誰が作るか? (表10)

食事は誰が作るかについては、「本人」と回答した者が458名(76.3%)、「配偶者」が74名(12.3%)、「それ以外の家族」が55名(9.2%)、「家族以外」が8名(1.3%)、「不明」が5名(0.8%)となっている。

女性は、89.2%が「本人」と回答しているのに対し、男性は、「配偶者」が45.5%と最も多く、「本人」は39.0%に留まっている。

表10 食事は誰が作るか別人数及び割合

区分	本人	配偶者	それ以外の家族	家族以外	不明	計	本人	配偶者	それ以外の家族	家族以外	不明
男	60	70	22	1	1	154	39.0	45.5	14.3	0.6	0.6
女	398	4	33	7	4	446	89.2	0.9	7.4	1.6	0.9
計	458	74	55	8	5	600	76.3	12.3	9.2	1.3	0.8

次に、本人・配偶者以外の食事従事者を表 11 に示した。

「嫁」と回答した者が 15 名 (23.8%) で最も多い。

次いで、「娘」が 9 名 (14.3%)、「母」、「ヘルパー」がそれぞれ 4 名 (6.3%) ずつとなっている。

表 11 本人・配偶者以外の食事従事者別人数及び割合

理由 (複数回答)	人数 (名)	「食べていない」全数に占める割合 (%)
嫁	15	23.8
娘	9	14.3
母	4	6.3
ヘルパー	4	6.3
息子	3	4.8
妹	1	1.6
父	1	1.6
ボランティア	1	1.6
記載なし	25	39.7

(7) 買い物に困っていないか? (表 12)

買い物に困っていないかについては、「困っていない」と回答した者が 492 名 (82.0%)、「困っている」が 97 名 (16.2%)、「不明」が 11 名 (1.8%) となっている。

表 12 買い物に困っていないか別人数及び割合

区分	困っていない	困っている	不明	計	困っていない	困っている	不明
男	129	20	5	154	83.8	13.0	3.2
女	363	77	6	446	81.4	17.3	1.3
計	492	97	11	600	82.0	16.2	1.8

次に、「困っている」と回答した 97 名の「困っている」理由を表 13 に示した。

「店が遠い」と回答した者が 26 名 (26.8%) で最も多い。

次いで、「車がない、移動手段の確保が難しい」が 12 名 (12.4%)、「移動販売車利用」が 8 名 (8.1%)、「バス利用」が 7 名 (7.1%) となっている。

表 13 買い物に「困っている」理由別人数及び割合

理由 (複数回答)	人数 (名)	「食べていない」全数に占める割合 (%)
店が遠い	26	26.8
車がない。移動手段の確保が難しい。	12	12.4
移動販売車利用	8	8.1
バス利用	7	7.1
重いものを持つのが大変	5	5.2
家族に買ってきてもらう	4	4.1
生協利用	3	3.1
移動販売は欲しいものがない。利用しない。	2	2.1
店が少ない	2	2.1
子どもがいるので買い物が大変	2	2.1
まとめ買いをしている	2	2.1
人に酔ってしまうので外出していない	1	1.0
買い物不自由	1	1.0

週1回買い物に連れて行ってもらう	1	1.0
生協は量が多い	1	1.0
駐車場からの距離が遠く運搬が難儀	1	1.0
移動販売が通院時間にかかり利用できない	1	1.0
週1回北上まで行き買い物している	1	1.0
毎日行っている	1	1.0
失業しておりガソリン代がもったいない	1	1.0
移動販売車が最近こない	1	1.0
病院等に行った際買ってくる	1	1.0
寝たきりの家族を残して買い物に行くことができない	1	1.0
支援物資の受け取りが遠い	1	1.0
産直がないため野菜入手に困る	1	1.0
坂を上るのが大変	1	1.0
食べることができるものに制限あり	1	1.0
店が混んでいる	1	1.0
記載なし	22	22.7

3 栄養摂取の状況

栄養摂取の状況については、調査対象者 600 名のうち 25 名（男性 9 名・女性 16 名）について回答または十分な情報が得られなかったことから、この 25 名を除く 575 名の栄養素別摂取量を計算している。

この計算で得られた値と、各調査対象者の「日本人の食事摂取基準（2010 年版）」を比較し、栄養素別にその適否を判定している。

(1) エネルギー（表 14）

エネルギーについては、各調査対象者の摂取量が食事摂取基準に比較し 90%未満の者を「不足」、90%以上 110%未満の者を「適正」、110%以上の者を「過剰」と判定し分類している。

「不足」と判定されたのは 296 名（51.5%）、「適正」が 168 名（29.2%）、「過剰」が 111 名（19.3%）となっている。

男性は、「不足」と判定された者の割合が 64.1%となっている。

また、本調査対象者の平均摂取エネルギーは 1,519 kcal で、平成 21 年度県民生活習慣実態調査（以下、H21 調査という。）における大船渡地域被調査者 67 名の平均摂取エネルギー 1,781kcal と比較して少ない状況となっている。

表 14 エネルギーの摂取状況（食事摂取基準との比較）

区分	不足 (90%未満)	適正 (90以上 110未満)	過剰 (110%以上)	計	不足	適正	過剰
男	93	34	18	145	64.1	23.4	12.4
女	203	134	93	430	47.2	31.2	21.6
計	296	168	111	575	51.5	29.2	19.3

(2) たんぱく質 (表 15)

たんぱく質も、エネルギーと同じ判定で分類している。

「不足」と判定されたのは 178 名 (31.0%)、「適正」が 132 名 (23.0%)、「過剰」が 265 名 (46.1%) となっている。

また、本調査対象者の平均摂取たんぱく質は 57.1g で、H21 調査の平均摂取たんぱく質 69.5g と比較して少ない状況となっている。

表 15 たんぱく質の摂取状況 (食事摂取基準との比較)

区分	不足 (90%未満)	適正 (90以上 110未満)	過剰(110%以上)	計	不足	適正	過剰
男	57	31	57	145	39.3	21.4	39.3
女	121	101	208	430	28.1	23.5	48.4
計	178	132	265	575	31.0	23.0	46.1

(3) 脂肪 (表 16)

脂肪は、総エネルギー量の 20%以上 25%以下を「適正範囲」とし、それ以外を「適正範囲より少ない」と「適正範囲より多い」に分類している。

「適正範囲より少ない」と判定されたのは 173 名 (30.1%)、「適正範囲」が 138 名 (24.0%)、「適正範囲より多い」が 264 名 (45.9%) となっている。

また、本調査対象者の平均摂取脂質は 42.4g で、H21 調査の平均脂質 39.8g と比較して多い状況となっている。

表 16 脂肪 (総エネルギーに占める適正割合との比較)

区分	適正範囲 より少ない	適正範囲 (20%以上 25%以下)	適正範囲よ り多い	計	適正範囲 より少ない	適正範囲 (20%以上 25%以下)	適正範囲よ り多い
男	50	32	63	145	34.5	22.1	43.4
女	123	106	201	430	28.6	24.7	46.7
計	173	138	264	575	30.1	24.0	45.9

(4) カルシウム (表 17)

カルシウムについては、100%未満の者を「不足」、100%以上の者を「適正」と判定し分類している。この分類は、鉄、ビタミン類にも適用している。さらに、カルシウム、鉄及びビタミン A については「許容限度以上」という分類もあるが、本調査では該当者がなかった。

「不足」と判定されたのは 511 名 (88.9%) で、調査対象者のほとんどを占めており、「適正」はわずか 64 名 (11.1%) となっている。

また、本調査対象者の平均摂取カルシウムは 404mg で、H21 調査の平均摂取カルシウム 515mg と比較して少ない状況となっている。

表 17 カルシウムの摂取状況（食事摂取基準との比較）

区分	不足 (100%未満)	適正 (100%以上)	計	不足	適正
男	132	13	145	91.0	9.0
女	379	51	430	88.1	11.9
計	511	64	575	88.9	11.1

(5) 鉄（表 18）

鉄について、「不足」と判定されたのは 376 名（65.4%）、「適正」は 199 名（34.6%）となっている。

また、本調査対象者の平均摂取鉄量は 6.1mg で、H21 調査の平均摂取鉄量 8.9mg と比較して少ない状況となっている。

表 18 鉄の摂取状況（食事摂取基準との比較）

区分	不足 (100%未満)	適正 (100%以上)	計	不足	適正
男	101	44	145	69.7	30.3
女	275	155	430	64.0	36.0
計	376	199	575	65.4	34.6

(6) ビタミン A（表 19）

ビタミン A について、「不足」と判定されたのは 502 名（87.3%）、「適正」は 73 名（12.7%）となっている。

また、本調査対象者の平均摂取ビタミン A は 381ugRE で、H21 調査の平均ビタミン A 491 ugRE と比較して少ない状況となっている。

表 19 ビタミン A の摂取状況（食事摂取基準との比較）

区分	不足	適正	計	不足	適正
男	134	11	145	92.4	7.6
女	368	62	430	85.6	14.4
計	502	73	575	87.3	12.7

(7) ビタミン B1（表 20）

ビタミン B1 について、「不足」と判定されたのは 505 名（87.8%）、「適正」は 70 名（12.2%）となっている。

また、本調査対象者の平均摂取ビタミン B1 は 0.71mg で、H21 調査の平均摂取ビタミン B1 0.99mg と比較して少ない状況となっている。

表 20 ビタミン B1 の摂取状況（食事摂取基準との比較）

区分	不足	適正	計	不足	適正
男	127	18	145	87.6	12.4
女	378	52	430	87.9	12.1
計	505	70	575	87.8	12.2

(8) ビタミンB2 (表 21)

ビタミンB2について、「不足」と判定されたのは469名(81.6%)、「適正」は106名(18.4%)となっている。

また、本調査対象者の平均摂取ビタミンB2は0.94mgで、H21調査の平均摂取ビタミンB2 1.17mgと比較して少ない状況となっている。

表 21 ビタミンB2の摂取状況(食事摂取基準との比較)

区分	不足	適正	計	不足	適正
男	119	26	145	82.1	17.9
女	350	80	430	81.4	18.6
計	469	106	575	81.6	18.4

(9) ビタミンC (表 22)

ビタミンCについて、「不足」と判定されたのは506名(88.0%)、「適正」は69名(12.0%)となっている。

また、本調査対象者の平均摂取ビタミンCは56mgで、H21調査の平均摂取ビタミンC 100mgと比較して少ない状況となっている。

表 22 ビタミンCの摂取状況(食事摂取基準との比較)

区分	不足	適正	計	不足	適正
男	133	12	145	91.7	8.3
女	373	57	430	86.7	13.3
計	506	69	575	88.0	12.0

(8) 塩分 (表 23)

塩分については、100%未満の者を「適正範囲内」、100%以上の者を「過剰」と判定し分類している。

「適正範囲内」と判定されたのは189名(32.9%)、386名(67.1%)が「過剰」となっている。

表 23 塩分の摂取状況(食事摂取基準との比較)

区分	適正範囲内	過剰	計	適正範囲内	過剰
男	57	88	145	39.3	60.7
女	132	298	430	30.7	69.3
計	189	386	575	32.9	67.1

考察

本調査対象者の栄養摂取状況は、多くの栄養素に「不足」と判断された方の割合が多い結果となっているが、特にミネラルやビタミン類については「不足」と判断された方は8割にもなっている。

また、全体的に摂取量が不足している中で、塩分摂取量の過剰は健康上の観点から問題があると言える。

さらに、調査対象者や調査手法は異なるものの、H21 調査大船渡地域被調査者平均摂取量との比較では、どの栄養素も H21 調査の8割程度の摂取量に留まっていることから、本調査対象者の栄養摂取状況は、総体的に「良好とは言えない。」状況であり、また震災による何らかの影響は否定できないと推察される。

生活の状況では、「1日3食食べているか？」の質問には542名(90.3%)が「食べている」、
「食欲はあるか？」には560名(92.3%)が「ある」と回答している。

しかし、「3食食べている」と答えていても、実際に食べた食事の記入欄には、朝食・昼食・夕食のすべての欄に記載のない方も多く見られる。さらに、食事内容も、パンやおにぎり等の主食のみ、あるいはご飯と主菜のみで野菜等副菜がまったくないなど偏った食事が1日に2食あるいは3食ある方も散見され、「良好とは言えない。」結果に繋がっているものと思われる。

また、「治療中の病気がある」と回答した対象者が多く、中でも高血圧(38.4%)が多い。そのため、訪問指導等により、通院状況及び服薬等の把握が必要と考えられる。

「食事は誰が作るのか」に対する設問では、「本人が作る」と回答した女性が多い中で、男性の調査対象者154人中60人(38.9%)も「本人が作る」と回答している。応急仮設住宅には、調査未実施の男性も多く入居していることから、調理技術の確認や支援等についても検討が必要である。

さらに、買い物について困っている理由に「店が遠い」との回答が多かったが、最近では、店舗開店、移動販売車等の充実が考えられるため、現状把握が望まれる。

本調査結果のような栄養摂取状況等が長引くことで健康状態の低下や悪化に繋がることが懸念されることから、本調査結果を広く周知し、特にミネラル及びビタミン類が含まれる野菜摂取の増加を促すとともに、主食や主菜については適量に関する啓発を行う必要がある。

同時に、疾病リスクが高い方、自分で調理ができない方、年齢や身体機能等に比した買い物環境の悪い方等、栄養摂取状況改善のためのリスクが高い方には、その状況にあった支援の仕組みの検討等も進めることが必要である。

応急仮設住宅名・調査日・被調査者数

	応急仮設住宅名	調査日	被調査者数		応急仮設住宅名	調査日	被調査者数
1	地ノ森	8月29日～30日	30	20	甫嶺	10月3日	11
2	山馬越	8月31日～9月6日	31	21	長谷堂	10月3日	11
3	永沢	9月7日～15日	57	22	下富美岡	10月21日	1
4	大田	9月8日～26日	48	23	久名畑	10月11日	2
5	平林	8月27日～28日	23	24	宮田	10月13日～14日	32
6	山岸	8月28日	14	25	山口	10月26日	6
7	大立	9月29日	22	26	下権現堂	10月18日	3
8	上平	9月29日～30日	12	27	吉浜	10月31日	1
9	杉下	10月5日～6日	24	28	木町	10月28日	2
10	黒土田	10月5日～7日	43	29	館下	10月26日～27日	4
11	鳥沢	10月7日～11日	22	30	前田	10月24日	2
12	仲崎浜	10月12日	14	31	猪川	10月11日～21日	3
13	清水	10月11日	6	32	富沢	10月27日	2
14	後ノ入	10月12日～14日	17	33	下船渡	10月27日	3
15	後ノ入北	10月11日	2	34	轆轤石	10月24日	7
16	小中井	10月21日	10	35	沢川	10月24日～26日	13
17	大豆沢	10月21日	5	36	合足	10月26日	対象者不在
18	東町	9月20日	8	37	下館下	10月28日	2
19	長洞	9月30日～10月5日	57	36箇所 550名			

既設住宅等利用仮設住宅調査日・被調査者数

調査日	被調査者数
11月7日～11月16日	50